

大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 国連大学/東京大学御名前 沖 大幹 様

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- 是非すべきこと
 - 22世紀に向けた夢を語り合える場の提供。
 - 次世代、次々世代がどんな社会でどんな暮らしをしていて欲しいと思うのか、その実現に向けて今を生きる我々に何ができて何をせねばならないか、2100年の人と社会と地球を思い描き、意見を交わす機会に2025年の大阪・関西万博がなれば素晴らしい。
 - 宇宙旅行や平和な世界国家でも良いし、先端科学技術による貧困削減や環境保全も良い。
- するべきではないこと
 - 2015年9月に国連で合意された「持続可能な開発のための2030アジェンダ(2030アジェンダ)」の趣旨に反するような行為。
 - あらゆる貧困を撲滅し、恐怖や暴力、病気、飢餓、欠乏、そして束縛などからの自由を獲得し、尊厳を持ち、持続可能な資源管理を実現して地球環境を守り、誰一人取り残さず豊かで満たされた生活を享受できるようにしようという野心的な目標が2030アジェンダに掲げられた持続可能な開発目標(SDGs)であり、それらの達成を阻害しない必要がある。
 - 人為的な気候変動を加速するようなエネルギー多消費による温室効果ガスの排出や食品を含む廃棄物、資源消費などは可能な限り削減する必要があり、ジェンダーや平等、人や文化、生物の多様性への配慮が必要である。
- 「形あるものは残らない、形のないものは忘れ去られる」が、後世に残すべきもの
 - アイディア、意匠、サービスなど、形がなくとも「高い価値に対しては然るべき対価を払う(あるいは、お互いに提供しあう)」という文化の醸成と伝承。
 - モノが溢れる時代の「支払い価格は安ければ安いほど良い」という価値観は、我々自身の創意工夫や試行錯誤、努力をお互いに過小評価し、多様で豊かな発想に基づく社会イノベーションの芽を摘み、承認欲求の充足や自己実現を阻んでいる。
 - メディア等で「お金にうるさい」と評されることもある関西圏の方たちは、単に守銭奴なのではなく、お金の価値を知っているからこそ適切に使わないと我慢ならないのであり、近江商人の「三方良し」に象徴されるようにビジネスを通じた社会課題解決がめぐりめぐって自らの利益に戻ってくることを理解している。
 - そういう関西圏の万博から、「然るべき対価を価値に対して支払う(あるいは相互提供する)」という文化を広め、後世に残すことこそ、Society5.0の実現には不可欠である。

(参考：提言「22世紀の国づくり」、土木学会、令和元年5月)

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

- 歌って踊れる万博(日本各地と世界各国の祭り、パレード)
 - 国家百年の計が人材育成ならば、国家 1000 年の計は文化の醸成と伝承であり、人がより良く生きられる文化を生み出し、次世代に継承できる社会の構築を目指すべきである。
 - 新しいモノを観るよりもコトの共有に重きがある。大阪・関西万博を日本各地と世界各国の祭りの show case とすることは、永く文化を育み継承している関西圏の姿を上手に世界に映し出し、国際交流を促して、万博本来の趣旨をいかに発揮できる。
 - 祭りはコミュニティの結束を固め、日常生活の quality of life を向上させると共に、健康長寿にも貢献している。祭りの日にこそ「いのち輝く」。
 - 毎日定期的にパレードが観覧できると共に、夕方になったら踊りの輪に加われる場があると良い。一緒に踊ったら希望に応じて SNS でつながることができて、先端技術のおかげで言葉を越えて交流できる仕組みがあるのも良いのではないか。
 - 万博を機に、毎年 8 月 1 日が「日本水かけ祭りの日」になると嬉しい。
 - 最新映画を 3D で観られる時代にパビリオンでの 3D 映像には誰も足を運ばない。家庭にスマート機器が入る現在、ロボットの集客力には期待できない。生身の人間によるエンターテイメントこそがリピーターを含めた集客の原動力だろう。誰が VR を見るのか?
 - 祭りには屋台である。「世界の屋台村」に日本ならではの歴史・文化を反映させ、さらに待ち時間や支払い方法などに最新技術を導入して、現状のフードコートやゲームセンターに比べて、もっと心が満たされ、楽しい未来の屋台村像を示せないか。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

- 暑気期間中は、通夜開催も含めた夜間の有効活用の実現。
- スマート・ウォーターサーバーによる飲み水サービス。
 - 水道水が飲めないため、やむを得ず瓶詰水を飲用水や調理用水として用いている国や地域には多くあるが、特に人口が密集した都市などでは人々が 1 年に瓶詰水代として支払うお金で施設を改善すれば飲める水道にできる、といった話もある。各人がペットボトルを購入して飲むよりは、各人がコップや水筒を持参して、好きな時に好きなだけ水を飲める仕組みにしてはどうか。飲み水容器の廃棄物削減にもつながる。浪費を防ぐために、ごく低額の自動課金(IC 入場券やスマホ決済)を考えても良いかもしれない。
- 災害を想定した事前計画
 - 風水害のように直前にある程度の予測が可能な災害に対しては、発災前に閉場としたり、前売り券を払い戻したりする手順を事前に決めておく必要があるのではないか。

4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

- 大阪の中小企業が、アフリカや南アジアなどの途上国に直接投資をしてビジネスができる場も提供できると良いのではないか。